

# カナリヤ通信



第5号

～働き方について考え、気づく～

「カナリヤ通信」では、さまざまな考え方をもちた女性が、社会の中で逞しく、それでいて女性らしく声を出して、人生を楽しみながら働く姿を表現していきます。

下山さんのある日のスケジュール		夫、子(小6、小2、年長)	
5:45	<b>起床</b>	子どもたちは、遅くても6:30までに起きるように言っていますが、毎朝も声をかけることも	
6:45	<b>朝食</b>	朝は、ラジオをつけて聞きます。目にしたニュースや子どもから質問を受けたり、一緒に考えたりします。天気予報も見ます。	
7:45	<b>登校</b>	準備は各自で、次男と娘の食いつまむのが遅いと片づけてバタバタ	
8:00	<b>登園、出勤</b>		
9:00	<b>始業</b>		
9:00	<b>昼休み</b>	「ソフトがなくなった! 消しゴムがない!」の報告を何枚も受けて「スーッ」となるので、たいていは昼休みに車で買い出しに出かけます。	
18:30	<b>退社</b>	なるべく19:00までに帰宅できるように、18:30退社を心掛けています。	
19:00	<b>帰宅</b>	子どもたちは17:30に保育園と学童に保育が帰る(次男は、1人で帰宅)	
19:45	<b>夕食</b>	夕食、娘はこの時間帯に布団に入ります。	
21:00	<b>子ども就寝</b>	子どもは毎晩17:30に保育園と学童に保育が帰る(次男は、1人で帰宅)	
22:00	<b>家事等</b>	子どもは毎晩17:30に保育園と学童に保育が帰る(次男は、1人で帰宅)	
23:30	<b>就寝</b>		



**子育ては「育児・家事」**

働きながら子育てをする人、多くが分かった。その背景には、育児制度が整備されていなくても、男性の育児参加や職場の理解が進んでいるところがある。取ってしまおうと育児を断念してしまわないで、育児が「育児・家事」で済ませたい。子育ては「育児・家事」で済ませたい。子育ては「育児・家事」で済ませたい。

山形さんのある日のスケジュール		夫、子(高1)	
5:30	<b>起床</b>		
6:00	<b>朝食</b>	娘が中学入学と同時に毎朝のお弁当づくりのスタート。3人分づくから、早稲子まで毎朝の朝食づくりの、手づかみです。	
6:15	<b>登校</b>	朝の忙しい時間に、学校で朝食づくり(は昨日までから入れて)と渡されることも。	
7:15	<b>出勤</b>		
8:30	<b>始業</b>		
19:00	<b>退社</b>		
20:00	<b>帰宅</b>	お弁当持参の際は、度々食べながら、娘の学校や塾の予定を確認したり、娘にメールを送ったりします。	
21:45	<b>夕食</b>	娘が塾で帰りが遅くなるので心配なため、バスの本数が少なくなるので、最寄り駅まで車で迎えに行きます。	
22:00	<b>家事</b>	娘が帰ると、3人で夕食。	
23:00	<b>就寝</b>	娘、自分、夫の就寝。	
0:30	<b>就寝</b>	うっかりしているとき1時を回ることも。	

育児・家庭

今回は4月13日です。テーマは「トイレ」を予定しています

## 応用地質社会システム事業部D B技術部主任



下山 奈緒さん

入社当初は古くは、子育てと仕事、両立が難しいと感じていました。子育ては仕事よりも優先したいという気持ちから、最初は仕事の手を止めて子育てに専念していましたが、子育てが一段落した頃、仕事を再開したいという気持ちから、仕事と子育ての両立を模索し始めました。子育ては仕事よりも優先したいという気持ちから、最初は仕事の手を止めて子育てに専念していましたが、子育てが一段落した頃、仕事を再開したいという気持ちから、仕事と子育ての両立を模索し始めました。

## 元旦ビューティ工業社長室広報担当課長代理



山形 英子さん

仕事は質、子育ては密度が大切。子育ては仕事よりも優先したいという気持ちから、最初は仕事の手を止めて子育てに専念していましたが、子育てが一段落した頃、仕事を再開したいという気持ちから、仕事と子育ての両立を模索し始めました。

## 生活スタイルに合った「最適解、見つけて



共働き世帯が増えている現在、日本に約11万人といわれる「主夫」(家事や育児を主に担う男性)の存在もある。「仕事が忙しく、子どもと過ごせる大切な時間を守るため」と笑顔で語る東大卒主夫の堀込泰三さんは、かつては専業主夫として、現在は2児の父として子育てに専念している。「育児は仕事と同等の責任だ」と語る堀込さんは、子育てのなかで「主夫」としての役割をどう果たしているのかを語ります。

## わが子の誕生日には似顔絵クッキーをつくる

9歳と4歳の息子たちを送り出し、部屋の片付けなど家事をすませ、翻訳の仕事に励む。妻の帰宅は深夜になるため、保育園のお迎え、夕食づくり、寝かす作業まで、家事と育児をほぼすべて担当している。最初から順風満帆だったわけではない。苦勞もあった。児童館で繰り広げられる「ママ友」は「魔界」。でしかなかった。誰にも話しかけられない孤独を感じたが、「同じ子育てをしている職場仲間」と思えば、壁は一瞬にして取り払えた。いまは「ママ友」とランチをしてきたところ、と目を細める。女性、かつての魔界を楽しんでいる。女性、かつての魔界を楽しんでいる。女性、かつての魔界を楽しんでいる。

赴任するか、家族を帯同するかを決断を迫られる。堀込一家もこれに直面した。だからこそ、「(休職期間は)女性のための制度はなかった」という現実。男性が子育てを担うことは、女性と比べていることも問題。かつては大手企業に勤め、「早稲子」という不満を感じたこともあった。というが、主夫を経験したからこそ、「男性+仕事」という固定観念を壊す必要を感じている。わが子が家庭を築くことには、「固定観念にとらわれず柔軟に生きられる世の中になってほしい」と願う。主夫という選択も素晴らしいが、夫婦でよく話し合い、その都度、役割を交代し、幸せになれる「最適解、見つけてほしい」とも。

## 春の訪れ 心から喜べない人に

日差しが明るくなり春の訪れを感じる今日この頃。でも、待ち遠しく思っている人だけには限らないのでは? 今回登場するのは、株式会社「はなのど館」の代表取締役社長、堀込泰三さん。1998年発売のロングセラー商品で抗酸化作用のあるビタミンCを1袋に450mg加えた栄養機能食品、プロポリス抽出物も配合している健康維持におすすりです。1粒ずつみそと、メントールの強烈な刺激が鼻と舌にスーッと抜けていく感じが口の中がスッキリ。また、餡が溶けにくく美味しさとさわやかさが持続します。定番のレモン風味とシュガレスのアップル風味、甜菜入りの3種類を用意。携帯にも便利な個別包装なのでお出かけの時もバッグに入れて、スキマ時間にちよっと一息、爽快感を味わってみてはいかがでしょうか。



■株式会社浅田 明治20(1887)年に創業以来、129年の歴史を誇る老舗メーカー。お馴染みの固形浅田飴、糖菓子を始め、せき止め、鼻炎薬などの医薬品、甘味料のシュガーカットやダイエットキャンディ等の健康食品なども手掛けている。

■「はなのど館 E X レモン風味」2袋を20名にプレゼント 住所、氏名、電話番号を明記の上、編集部にメールでご応募下さい。締切は3月25日(金)です。



C「5時30分に起きる自信がありません! 育児は無理かも(泣)」  
A「大丈夫。わたしは子どもができてから、5時起きも平気になったよ!」  
B「うちは朝一番遅く起きると朝ご飯ができて。共働

きする以上、家庭での役割は半々という約束をした。育みたい。(笑) A「がんばって育てても、中学生の娘は毎日生意気なことやって腹が立つこともあるけれどね」

お問い合わせ: 株式会社日刊建設通信新聞社  
カナリヤ通信編集部 03-3259-8711  
ご意見・感想・プレゼントの応募は  
canaria@kensetsunews.comまでお寄せください。  
トイレットについてアンケートにご協力ください。  
詳しくはHPで。